

【5】 労働の供給曲線

レジャーを消費すると労働賃金を失うので、レジャーの価格は賃金ということになる。

賃金水準が十分に高くなると、所得効果が代替効果を上回り、賃金率の上昇とともに労働時間を減らし、レジャーを増すことになる。

賃金が上昇するとレジャーが相対的に高くなる。一方、労働が相対的に安くなるので、代替効果により労働が消費される。

一般に、代替効果 > 所得効果のとき、労働供給は実質賃金の増加関数となる。常に、増加関数となるわけではない（代替効果 < 所得効果の場合）。

労働供給は、実質賃金に依存することになる。

実質賃金（または、名目賃金）が上昇した場合、必ず労働供給が増加するものではない。

1日の時間が制約条件であるから、労働時間と余暇時間は相互に関係する。

問題 No. 3 効用無差別曲線

次の各問について答えなさい。

問1 2つの通常の財の消費に関する無差別曲線についての次の記述のうち、正しくないものはどれですか。

- A 無差別曲線は、通常、限界効用が逡減するので原点に対して凸である。
- B 無差別曲線は、交わらない。
- C 無差別曲線は、右下にあるほど高い効用を表している。
- D 無差別曲線は右下がりである。

問2 一定額の所得を二つの財（ x 、 y ）への支出に配分している消費者の行動について考える。両財の消費構造の特徴に関する次の記述のうち、正しいものはどれですか。

- A x 財の価格のみが低下したときに x 財の消費量は増加した。このとき、 x 財は上級財であることがわかる。
- B x 財の価格のみが上昇したときに y 財の消費量が増加した。このとき、 y 財は上級財であることがわかる。
- C y 財の価格のみが低下したときに x 財の消費量は減少した。このとき、 x 財は下級財であることがわかる。
- D y 財の価格のみが上昇したときに y 財の消費量は増加した。このとき、 y 財は下級財であることがわかる。

問3 効用に関する次の記述のうち、正しいものはどれですか。

- A ラーメン3杯と牛丼2杯を消費したことによってAさんは-2.5の効用を得た。これはAさんが食べすぎによって満足度が低下したことを表している。
- B ラーメンを食べたことでBさんは2、Cさんは2の効用を得た。ここからBさんとCさんは同じくらいラーメンが好きだということがわかる。
- C ラーメンを食べる量を1杯減らす代わりに牛丼を2杯多く食べたところ満足度は変わらなかった。このとき牛丼に対するラーメンの限界代替率は0.5である。
- D ラーメンと牛丼の消費量とともに増やしたならば、効用水準は必ず増加する。

問題 No. 3 【解答及び解説】

(答) : 問1 C 問2 D 問3 C

《解説》

問1 無差別曲線の特徴は、次の4つである。

右下がりである。

原点に対して凸である(限界効用逓減の法則)。

互いに交わらない。

原点から遠い無差別曲線ほど効用が大きい。

よって、本問の正解肢は(C)である。

問2 A : x財の価格が下落した場合、代替効果があるのでx財の消費量は増加する。所得効果がマイナス(下級財)であっても、代替効果より少なければ、全体としてx財の消費量は増加する。本肢は誤り。

B : 相対的に低下した財の消費量は増加するが、上級財であるとは限らない。本肢は誤り。

C : 相対的に上昇した財の消費量は減少する(代替効果)。しかし、減少したからといって下級財であるとは限らない。本肢は誤り。

D : 本肢は正しい。

よって、本問の正解肢は(D)である。

問3 A : 財を消費して満足度が低下したとしても、効用の値は小さくなってても負(マイナス)にはならない。本肢は誤り。

B : 効用が同じであることは効用の主観的満足度が同じであり、同じくらいラーメンが好きであるということではない。本肢は誤り。

C : 消費財Aに対する消費財Bの変化量(B / A)の割合に(-)の符号を付けた値を限界代替率 MRS_{AB} という。

$$MRS_{AB} = (-) \frac{B}{A}$$

よって、牛丼に対するラーメンの限界代替率 MRS は、次式として表わされる。

$$\begin{aligned} MRS(\text{牛丼、ラーメン}) &= (-) \frac{\text{ラーメン}}{\text{牛丼}} \\ &= (-) \frac{(-) 1}{2} = 0.5 \end{aligned}$$

本肢は正しい。

D : ラーメンと牛丼のどちらか一方または両方が好きでなくなった人には成立しない。本肢は誤り。

よって、本問の正解肢は(C)である。

問題 No. 4 弾力性と財の特性

次の各問について答えなさい。

問1 消費者行動に関する次の記述のうち、正しいものはどれですか。

- A ある財の価格が上昇したとき、代替効果はその財の需要を減らす。
- B 所得の増加とともに、消費量が減るような財を正常財と呼ぶ。
- C 必需品のほうが嗜好品よりも、需要の所得弾力性は大きい。
- D 所得効果が正のときは、需要の所得弾力性は負である。

問2 消費者行動に関する次の記述のうち、正しいものはどれですか。

- A ある財の価格が上昇したとき、代替効果はその財の需要を増やす。
- B 所得が増加すると、各財の消費量は必ず増加する。
- C 需要の所得弾力性が1より大きい財を奢侈品と呼ぶ。
- D 所得効果が正のときは、需要の所得弾力性は常に1より大きい。